

令和4年度 関西広域応援訓練（実動）の実施結果について

令和4年10月20日
広域防災局

1 訓練目的

「関西広域応援・受援実施要綱」「緊急物資円滑供給システム」「基幹的物資拠点（0(ゼロ)次物資拠点）運用マニュアル」等に定める広域応援・受援活動、物資供給の手続きを確認する訓練を実施することで、関西広域連合、構成団体、連携県等の連携強化及び対処能力向上を図る。

2 訓練想定

南海トラフ地震が発生し、和歌山県、徳島県、を中心に関西圏域に甚大な被害が発生。1次物資拠点が使用不能となった徳島県から要請を受け、三木総合防災公園に基幹的物資拠点（0次物資拠点）を開設し、物資調整を実施。徳島県の2次物資拠点への物資輸送を行う。

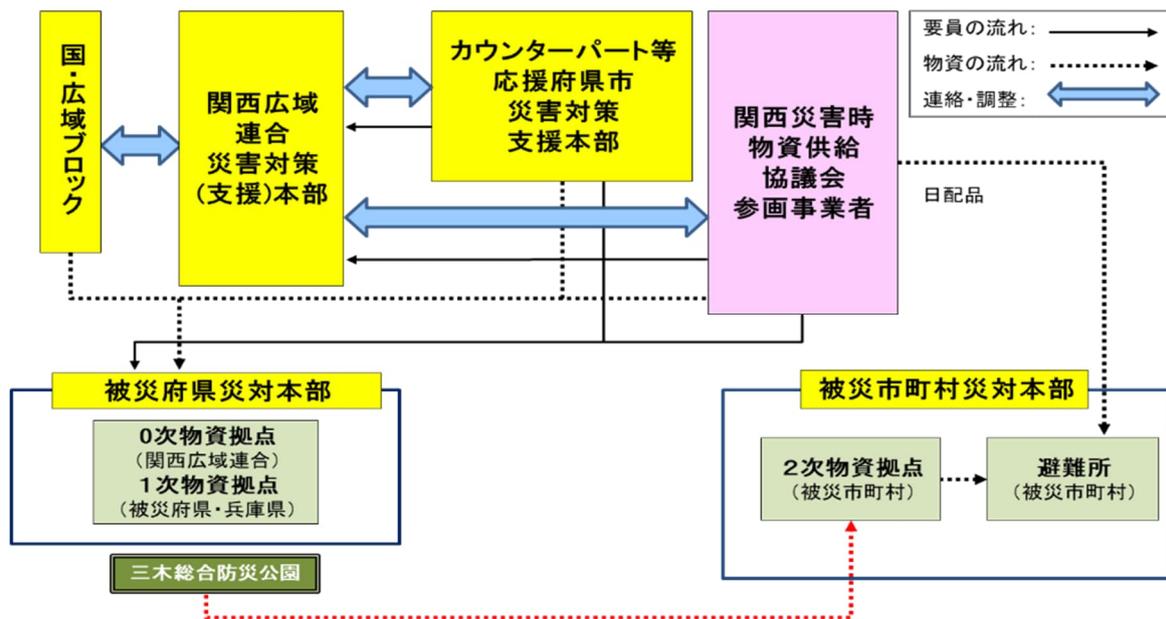
3 訓練内容

区分	ワークショップ	実動訓練	検証会 (関西災害時物資供給協議会総会)
日時	10/20（木） 10:30～12:00	10/20（木） 13:00～16:00	10/20（木） 16:20～17:10
形式	ハイブリッド（現地＋WEB配信）		
会場	三木総合防災公園		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練概要説明 ・緊急物資円滑供給システム及び0次物資拠点運用マニュアル等の説明 ・民間事業者による「災害時の物資輸送・搬入・搬出に係る留意点」の講義 	<ul style="list-style-type: none"> ・0次物資拠点開設、運営訓練 ・物資受入訓練 ・物流事業者による「倉庫内作業の注意点」等の実演講義 ・出荷調整、物資搬出訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りグループワーク ・物流事業者からの講評 ・有識者からの講評
参加機関	52団体・88人		

< 訓練活動風景 >



<訓練内容イメージ図>



4 訓練結果

<民間事業者>

- ・災害時の物資輸送について、行政としての立ち上がりのプロセスを分かりやすく見ることができた。事業者として何をすべきか考えるきっかけになった。
- ・0次物資拠点開設、運営訓練は毎年実施し、メンバーが交代してもできるようにすべきである。
- ・搬出入作業においては、物資の形状の違い、各トラックに応じた積み込み、ロールボックス・パレットでの積み込みなど、様々なシチュエーションを想定し、実動訓練できた点が良かった。
- ・物資輸送ルートに関する情報共有や緊急通行車両の申請など、物資輸送に関する具体的な動きを確認する内容も取り入れていただきたい。

<行政>

- ・民間事業者の方からの講義や詳しい指導を頂けた点がとても参考になった。
- ・これまで県の訓練だけでは分からなかった広域連合、応援府県、関係機関の役割や情報の流れが分かった。
- ・実地訓練で倉庫での作業や搬入・搬出が詳しく実施できてもらえてよかった。
- ・搬入・搬出について実動で行ったことで、かかる時間や実際の労力を体験できた点が良かった。
- ・応援受援調整システムの操作訓練を実施して欲しい。
- ・今回の訓練では、多くの関係者と顔見知りになり、拠点の課題である搬出入業務を経験できたので、次回は協定事業者が特に課題と感じている行政との情報伝達や調整等を中心に実施しても良いのではないかと。

【参考】

<参加機関一覧>

訓練参加機関（52 団体・88 人）	
関西広域連合構成団体（12 団体）	
滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、関西広域連合広域防災局	
関西災害時物資供給協議会参画団体・事業者（29 団体）	
佐川急便(株)、日本通運(株)、ヤマト運輸(株)、京都府トラック協会、大阪府トラック協会、兵庫県トラック協会、鳥取県トラック協会、徳島県トラック協会、京都倉庫協会、大阪倉庫協会、和歌山県倉庫協会、徳島県倉庫協会、イオンリテール（株）、NPO 法人コメリ災害対策センター、(株)セブンイレブンジャパン、ミニストップ(株)、(株)ローソン、滋賀県生活協同組合連合会、京都府生活協同組合連合会、大阪府生活協同組合連合会、奈良県生活協同組合連合会、和歌山県生活協同組合連合会、わかやま市民生活協同組合、生活協同組合とくしま生協、アサヒ飲料(株)、ダイドードリンコ(株)、(株)ハマネツ、森永乳業(株)、山崎製パン(株)	
広域ブロック（4 団体）	
九都県市、中国地方知事会、四国知事会、九州地方知事会	
国機関（6 団体）	
陸上自衛隊、国交省、近畿運輸局、神戸運輸監理部、近畿地方整備局、近畿経済産業局	
その他（1 団体）	
鳥取県議会	